

【映像】

テーマ上映会「実験映画の長編&大作」

会期：2009年6月12日(金)～14日(日)、
13日(火)～25日(木) [6日間]
会場：アートスペースA



実験映画に限らず、長編映画は、観客に対する時間的な拘束が長くなるため敬遠されがちであり、その点で興業的にも不利とされている。当センターの上映会でも、短編に比べると長編はやや客足が落ちる傾向がある。しかし今回に企画では、“長編”という言葉をあらかじめタイトルに掲げていたためか、観る側にもこうした作品に挑む心構えができていた様で、プログラムごとのバラつきが少なく、コンスタントに観客が会場を訪れていた。

『ロスト・ロスト・ロスト』や『松前君の映画』など、文字通りの長編で上映機会の少ない作品や、『ジェロームの時間』や『遠くを見れない男』といった愛知初公開作品を配し、常連的に実験映画の企画に訪れている客層を押さえつつ、『トワイライツ』や『グローバル・グループ』など、30分クラスで、比較的見やすい作品も取り上げることで、入門者や初心者にもアピールすることができたのではないかだろうか。

これらの作品だけでなく、『フーガの技法』や『影の子供』など、この会場での上映頻度の高い作品でも、観客数が落ちなかつたということは、4月以降に入学した学生や、40～50歳代のサラリーマンなど、新たな観客層を開拓した他、既に作品を観てしまっている観客でも、長編ないし大作という観点から、改めて作品を見直してみよう、という意識が働いたのではないかと考えられる。

また予想以上に効果的であったのが、今回初めて試みた「ポイント・サービス」である。これは、来場につき、1日1個スタンプを押印し、ポイントを貯めると（ささやかなものであるが）プレゼントを進呈する、という企画であった。少しでも入場者数アップにつながれば、という意図もあったが、より大きな意味では、観客に上映会場に足を運ぶこと自体を楽しんでもらい、ひいては映画館で観る映像体験が持つ特別さを改めて味わってほしい、というねらいがあった。さらにその底流には、今年度の文化情報センターが事業全体の統一テーマとして設定しているコンセプト「身体感覚の覚醒」の具体化という側面がある。プレゼントとして差し上げたのは、当センターの広報誌「AAC」のバックナンバーや、当センター制作の映画・天野天街監督『トワイライツ』のリーフレットなど、ストックしていた過去の資料だったが、来場者の反応は非常に良く、好評で、実験映画の長編という集客性の薄い企画にもかかわらず、6日間でトータル約700人の観客が集まるという結果に貢献したといえよう。

□上映作品リスト

- ナム・ジン・パイク 『グローバル・グルーヴ』★共作:ジョン・J・ゴットフリー (1973年、ビデオ、28分30秒)
『ガタルカナル鎮魂歌(レクイエム)』★共作:シャーロット・モーマン (1977~79年、ビデオ、28分33秒)
- ロバート・ウィルソン 『ヴィデオ 50』★ (1978年、ビデオ、52分)
- 大木裕之 『松前君の映画』 (1989年、8mm、180分)
- 和田淳子 『ボディドロップアスファルト』★ (2000年、ビデオ、96分)
- ※愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品第9弾
※「第6回スプリト国際新作映画祭 2001」(クロアチア)ビデオ部門特別賞
- 帯谷有理 『サイケデリック・オルガン・パンダ』★ (2003年、ビデオ、110分)
- ※愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品第12弾
- ジョナス・メカス 『ロスト・ロスト・ロスト』 (1975年、16mm、176分)
- ビル・ヴィオラ 『おのれとは如何なるものかを識らず』★ (1986年、ビデオ、89分)
『砂漠』★ (1994年、ビデオ、26分)
『ザ・パッシング』★ (1991年、ビデオ、54分)
- 石田尚志 『フーガの技法』★ (2001年、16mm、20分)
- ※愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品第10弾
辻直之 『影の子供』★ (2006年、16mm、18分)
- ※ 愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品第15弾
※「第45回アナーバー映画祭」(2007年、アメリカ)奨励賞
- 天野天街 『トワイライツ』★ (1994年、16mm、33分)
- ※愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品第3弾
※「第41回オーバーハウゼン国際短編映画祭」(1995年、ドイツ)グランプリ
※「第44回メルボルン国際映画祭」(1995年、オーストラリア)短編部門グランプリ
- スタン・プラッケージ 『DOG STAR MAN』(完全版)(1961~64年、16mm、78分)
- ナサニエル・ドースキイ『ジェロームの時間』(1982年、16mm、50分)
- ピーター・ローズ 『遠くを見れない男』 (1981年、16mm、33分) ※愛知初上映

愛知特別プログラム「あいちの新世代たち 2009」

- 横井正樹 『countdown』 (2009年、ビデオ、8分)
- 亀山千尋 『フィクションなファクト』 (2008年、ビデオ、11分)
- 林 一嘉 『あい』 (2008年、ビデオ、10分)
- 岡田昭憲 『親愛なるアピタ様へ』 (2009年、ビデオ、12分)
- ユクタケ"カトウ"シンペイ 『Jaaja/YAN YAN』 (2008年、ビデオ、1分)

※「★」印は、愛知県文化情報センター所蔵作品。1階アートライブラリーで、リクエストによる鑑賞も可能です。